

平成 30(2018) 年度後期『教職実践演習(小) B』ガイダンス資料の作成と活用の試み  
—教職実践演習に統合化される教師教育プログラムのさらなる改善のために—

A trial to create and utilize the guidance material of the “Practical Seminar for the Teaching (Elementary School)B” in the Second Semester of 2018 : For the further improvement to the holistic teacher education program integrated into the practical seminar

前原 健三, 磯部 美良, 遠藤 純

MAEHARA Kenzo, ISOBE Miyosi, ENDO Jun

武庫川女子大学 学校教育センター年報

第 4 号 2019 年

## 【資料解説】

平成 30(2018)年度後期『教職実践演習(小)B』ガイダンス資料の作成と活用の試み  
—教職実践演習に統合化される教師教育プログラムのさらなる改善のために—

A trial to create and utilize the guidance material of the “Practical Seminar for the Teaching (Elementary School)B” in the Second Semester of 2018 : For the further improvement to the holistic teacher education program integrated into the practical seminar

前原健三\* 磯部美良\*\* 遠藤 純\*\*

MAEHARA, Kenzo\* ISOBE, Miyosi\*\* ENDO, Jun\*\*

## 【解説】

ここで紹介する資料は、平成 30 年度後期に開講され、小学校教職課程を主専攻とする教育学科 4 年 ABC クラス計 131 名の履修者を対象とする『教職実践演習(小)B』の授業ガイダンス用資料(紙幅の都合上、一部を割愛している)である。授業担当教員は、前原・磯部・遠藤の三名である。

本科目は、平成 22 年度より小学校教職課程を主に専攻する教育学科 4 年次生を対象に、平成 24 年度まで 3 年間は選択科目として、平成 25 年度(平成 22 年度入学生の 4 年次)から平成 30 年度までの 6 年間は教職必修科目として開講され、筆者の一人である前原は学科教員とともに共担してきた。「教職実践演習」という教育学科開設の教職必修科目自体の開設趣旨・目的・概要・特色等について、更には、本科目の提言がなされた中央教育審議会答申『今後の教員養成・免許制度の在り方について(平成 18 年 7 月 11 日)』の基本的な考え方については、以下報告書 1・2 及び答申 3 を参照願いたい。

1. 武庫川学院立学の精神に立脚した全人的教職実践力の形成とその質保証システムの再構築—我が国近年の教師教育改革施策の動向と課程認定大学の対応課題—武庫川女子大学教育研究所 研究レポート第 47 号 33—100

<http://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoken/maehara.pdf>

2. 武庫川学院立学の精神に立脚した全人的教職実践力形成論—本学教員養成質保証システム再構築途上における『教職実践演習(小)AB』の報告と課題—2010～2017 武庫川女子大学教育研究所 研究レポート第 48 号 55—102

<http://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoken/report48/4804.pdf>

3. 中央教育審議会答申『今後の教員養成・免許制度の在り方について(平成 18 年 7 月 11 日)』

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1212707.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1212707.htm)

『教職実践演習(小)B』の授業では、必修化初年度である平成 25 年度の後期より 6 年間、大阪府・西宮市・神戸市・大阪市等の近隣教育委員会との連携により、卒業後教壇に立つ(意志を有する)若き教師たちへの励ましと前倒し研修的な意味合いを込めて、実施してきた。本学での教職課程履修により修得すべき教員として必要な資質・能力についての確認は、前期の『教職実践演習(小)A』においてほぼ完了させ、更なる補完的な、あるいは発展的な実践的課題について探求することを企図してきた。

このような意味において、『教職実践演習(小)B』の授業は、卒業必修科目『卒業研究』とともに、本学文学部教育学科(平成 30 年度入学生の卒業時＝平成 33 年度まで)において教職への道を歩み始め、卒業後も教師としての学びを高め続ける学生たちの《一到達地点》であり、同時に新たな未来への《一出発地点》でもある。これらの《両地点》を結合させるところに、本演習の眼目もある。

『教職実践演習(小)B』の授業運営に係る上記のような経緯と意思を込めて、本資料をここに紹介する。平成 31 年度開設の教育学部に開講される教職課程を履修する者に対して、その 4 年次の後期以降に開

---

\* 教育学科教授      \*\* 教育学科准教授

講される『教職実践演習』の新たな授業運営を検討する際の基礎資料(叩き台)としていただくことを願っている。なお、現行教職課程の『教職実践演習(小)B』の授業では、下記の資料Ⅰ・Ⅱについてもその作成を義務づけ、『小学校教師として必要な資質・能力の修得状況に係る〈自己評価〉及び〈今後の探求課題とその方法〉』についての学生本人による最終確認を求めている。

**資料Ⅰ:**『小学校教師として必要な資質・能力の修得状況に係る〈自己評価〉及び〈今後の探求課題とその方法〉』についての自己確認シート **資料Ⅱ:**『総合自己評価 レーダーチャート』

資料Ⅰ・Ⅱは、平成 24～26 年度の教育学科カリキュラム委員会にて(佐々木・村井両委員より)提案された案を授業担当者が加筆修正の上、『教職実践演習(小)B』において活用してきた資料である。

なお、中高・栄養教諭教職課程履修者に求められる「中高・栄養教職課程修了に必要な資質能力とその確認指標<sup>(1)</sup>」については、平成 28 年度までの入学生用『履修便覧』に掲載されている。教職実践演習履修までにその作成を求められている『教職履修カルテ』については、中高・栄養教職課程の場合は、この「中高(栄養)教職課程修了に必要な資質能力とその確認指標」をベースに履修カルテを策定し、本学情報システム MUSES 上で教職課程履修学生が教職課程履修開始時より適宜作成・入力できる電子カルテ・システムが構築されている。「教職課程履修学生が作成するカルテ」と「教職課程科目担当あるいはクラス担任・教育実習指導教員等が作成するカルテ」との二種類の教職課程履修カルテが存在する。説明用資料についても学生用・教員用が作成され、関係者に配布されている。

一方、教育学科開設の「幼稚園・小学校教職課程修了に必要な資質能力とその確認指標」については、平成 22 年度入学生以来、公式的には策定・公開されておらず、平成 30 年 10 月現在に至ってもなお、教育学科において育成されるべき幼稚園・小学校教員としての資質・能力の自己評価・他者評価に際して、「参照すべき規準」が公示されていない実状にある。また『教職ファイル』についても、「幼稚園・小学校教職課程修了に必要な資質能力とその確認指標」という「教員養成における質保証」システムを規定する「規準」が公的に策定されていないため、あくまで当該の教職課程開設主体がその必要性を認める限りではあるが、規準の内容構成等につき再検討する緊急性が認められる。

平成 31 年度教育学部教育学科第 1 期生(入学定員 245 名)への『教職ファイル』あるいは『教職課程履修カルテ』の適用は、平成 31 年度前期開講の幼稚園・小学校・中学校(国語・英語)・特別支援学校教職課程履修科目より始まる。従って、当該年度の授業開始(4月初旬)までに、遅くとも当該年度前期の成績発表時(8月中旬)までには、幼稚園・小学校・中学校(国語・英語)・特別支援学校教職課程履修学生のための新しい『説明用資料』とともに新しい『教職ファイル』あるいは『教職課程履修カルテ』そのものを、教育学部教育学科を構成する全教員合意のもと策定しておく必要性が看取される。

かかる教育学科開設の教職課程の履修を通して累積的に育成すべき「教員としての必要な資質・能力とその確認指標」並びにこれに準拠する『教職ファイル』の策定状況に鑑みて、『教職実践演習(小)A・B』の授業担当者としては、〈教職実践演習〉という課程認定上の一般的授業目的とともに武庫川学院立学の精神に立脚した全人的教職実践力<sup>(2)</sup>を形成すべく授業内容を構成し、このため授業運営上の一手だてとして『教職実践演習(小)A・B探求ノート』を考案し、これを積極的に活用してきた。なお、各大学が育成すべき「教員としての必要な資質・能力とその確認指標」と各自治体が策定している「教員等の資質向上指標<sup>(3)</sup>」との接続性・関連性等が、今後更に問われることが予想される。

本資料は、上記『教職実践演習(小)A・B探求ノート』の一部を構成するものである。しかし完成された資料(教材)ではなく、『教職実践演習(小)A・B』の授業内容・運営方法と併せて、更にその改善・修正を必要としている。本資料が、今後予想される『教職実践演習』とそこに収斂・統合化される教師教育プログラムの質的保証<sup>(4)</sup>を巡る議論に際して、細やかな素材・材料となることを願う。

## 注・引用文献

- (1) 【中高教職課程】[http://www.mukogawau.ac.jp/gakuin/syllabus/binran/pdf/d\\_2016/r01\\_00.pdf](http://www.mukogawau.ac.jp/gakuin/syllabus/binran/pdf/d_2016/r01_00.pdf)  
【栄教教職課程】[http://www.mukogawau.ac.jp/gakuin/syllabus/binran/pdf/d\\_2016/r03\\_00.pdf](http://www.mukogawau.ac.jp/gakuin/syllabus/binran/pdf/d_2016/r03_00.pdf)
- (2) 武庫川女子大学ホームページの総合案内「大学情報の公開／10.教員養成の状況(2018.10.25 現在)」を参照のこと。  
<http://www.mukogawa-u.ac.jp/~shikaku/teacher/training.html>. ここで「全人的教職実践力」とは、本学立学の精神の具現化として営まれる学士課程教育並びに教職課程教育の総体を通して形成されることが期待される教員の資質能力についての総合的で具体的な指標群によって、その時々々の「多様な社会的要請」と「本学教員養成プログラム」と「学修者の履修実態」等に即して「仮説的に構成され更新され続ける、実践省察のための」概念であり、固定的で実態的な概念ではない(本稿資料Ⅲを参照)。「全人的」ということについては、本学「立学の精神並びに教育目標」などを参照。更には、平成 22 年に刊行された『武庫川学院創立七十年史』88 頁～89 頁を参照のこと。
- (3) 【兵庫県】<https://www.hyogo-c.ed.jp/~kyoshokuin-bo/kyouinsihyou.pdf>  
【大阪府】<http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/6350/00000000/kensyukeikaku2%20.pdf>
- (4) 高等教育質保証学会第 8 回大会では、永田恭介大学基準協会会長による「我が国の大学教育と教育質保証の方向性」と題する基調講演と併せて、「教職課程、その質保証の現在と今後を考える―再課程認定後の教員養成教育の質をどう確保し保証していくのか―」というセッションが展開された。現職教員をも含む教師教育の質保証に関する外的内的保証システムの具体的な在り方が、問われている。発表要旨集録(2018 年 8 月 25 日 於中央大学)を参照のこと。  
なお日本教師教育学会編 2017 日本教師教育学会年報第 26 号では、『「標準化」「基準化」の動向』という特集が組まれている。また同年報第 27 号(2018)では、『教育学部の 30 年』という特集が組まれている。

## 【資料紹介】

本資料の《内容の構成》とその内容は、以下の通りである。

### 《 目 次 》

西宮市・大阪府・大阪市・神戸市教育委員会ゲスト・ティーチャーと、ともに学びあい、ともに育みあい、ともに高めあう教職実践力を創造的に探求しよう教職への道をあゆみ、学び続けるために！

表紙/立学の精神・教育綱領・教育目標・教育推進宣言/予定表/シラバス・・・・・・(紙幅の都合上割愛)  
武庫川学院立学の精神に立脚した全人的教職実践力の体系化とその構造図・・・(資料Ⅲとして本稿末尾に掲載)  
はじめに

【Ⅰ】『教職実践演習(小)B』の授業目的等と「教職ファイル」の提出について

【Ⅱ】『教職実践演習(小)B』を始めるに際しての「お願い①②③」

【Ⅲ】第 2 回目～13 回目の授業における「履修学生の行動」及び「担当者の対応」について

【Ⅳ】第 14 回目・第 15 回目の「授業運営」及び「授業アンケート結果回答」等について

【Ⅴ】大阪府・大阪市・西宮市・神戸市教育委員会からゲスト・ティーチャーをお迎えするに際して

【Ⅵ】各担当者からのメッセージ

【Ⅶ】『教職実践演習』関連の参考文献・資料等～教職実践力を創造的に探求し続けるひとのために～

終わりに

○ 資料Ⅰ：『小学校教師として必要な資質・能力の修得状況に係る＜自己評価＞及び

＜今後の探求課題とその方法＞』についての自己確認シート(資料Ⅰとして本稿末尾に掲載)

○ 資料Ⅱ：『総合自己評価 レーダーチャート』・・・・・・(資料Ⅱとして本稿末尾に掲載)

## はじめに

いよいよ、卒業を控えた4年次後期を迎える季節になりました。この前期には、教員採用試験へ挑戦するひと、一般企業等へ挑戦するひと、大学院等へ挑戦するひとなど、それぞれに自らの道を探求された(されている)ことでしょう。特に、7・8月には、猛暑の中、精神的・身体的に大変苦しい努力を重ねてこられたことと、推察します。お疲れ様でした。後期の「教職実践演習(小)B」では、受講者のみなさんが来春以降、教壇に立つことを前提に、神戸市・西宮市・大阪府・大阪市の教育委員会からの先生方(=ゲスト・ティーチャー)や学校現場の教職実践に学びながら、磯部・遠藤・前原の三名の担当教員はみなさんとともに、探求ノート5分冊を活用しつつ教職実践力を更に探求します。

実質的には、「この4年間の本学での学びの集大成である」と同時に、来春以降の教員生活を想定して、そのための「入職前スタート準備研修」の意味あいも込めています。また、教員採用試験に再度挑戦される方にとっては、上記の意義に加えて、これまでの自分自身と学びの総体を振り返り、「新たな自己を発見する」機会であり、来夏へ向けての「新たな挑戦の始まり」でもあります。教育系大学院へ進学したり、10年後に教員免許更新講習を受けたりしなければ、**教職について大学で学ぶ「最後の機会」**となるかもしれません。講師登録方法については、教職支援課より案内がありますので、11月下旬～12月上旬にぜひお尋ねください。

では、まずこの『教職実践演習(小)B』の全体構想及び留意事項等につき、説明します。

### 【Ⅰ】『教職実践演習(小)B』の授業目的等と授業計画について

#### ① 科目目的(*Syllabus*より <http://www.mukogawau.ac.jp/~kyoumuka/syllabus/2018/html/111302310.html>)

1. 学院立学の中に立脚した全人的教職実践力を支える人格を陶冶する。
2. 「教職実践演習(小)A」の科目目的に加え、来春より何らかの形で教職に就くことを前提に、近隣自治体教育委員会との連携の下、教職を志す履修者が将来的に行使し得る最小限の実践力の修得状況を確認し、補完指導を行う。
3. 「教職実践演習(小)A」および本学における全ての学びを踏まえ、自己の教職実践力に係る諸課題を把握し、更なる改善を重ねるとともに生涯に亘って学び続ける姿勢や態度を形成する。

#### ② 到達目標

1. 大阪府・大阪市・西宮市・神戸市等を始めとする地域の教育的ニーズに応え、信頼される教職実践力について、下記の観点よりその修得状況を総合的に検証する。

① 使命感・責任感・教育的愛情	② 社会的対人関係能力
③ 児童等への理解力と学級経営力	④ 教科内容及びその指導力

2. 「各ゲスト・ティーチャー」と「本学教員担当者」が連携して指導することにより、学生一人ひとりはその教職実践力をより豊かで・より堅実なレベルに高めるべく、学生相互で主体的・能動的に学びあう力を修得する。

#### ③ 授業計画→平成30年度後期「教職実践演習(小)B」の[授業予定表]を参照。(紙幅の都合上、割愛する。)

### 【Ⅱ】『教職実践演習(小)B』を始めるに際しての「お願い①②③」

- ① 平成30年度前期までの履修状況を踏まえて、「**教職ファイル**」を完成させ、**3回目10月13日(土)の授業終了後、クラスごとに幹事がまとめて、担当者の研究室に持参する**。未提出者は、担当者の



指示に従う。なお、未返却教職ファイル・探求ノートについては、初回 9 月 22 日(土)に返却します。

\*磯部研究室＝S E 419      \*遠藤研究室＝S E 407      \*前原研究室＝S E 410

- ② 前期の副題を「ともに学びあい、ともに育みあい、ともに高めあう教職実践力の創造的探求」と設定していました。みなさんの中で、問いかけてみましょう。「前期の教職実践演習において、クラス及びグループのメンバーとともに学びあえましか?」。そして、この学びあいを通して、「お互いを育み・励ましあいながら、あなた自身が、自らの教職実践力を創造的に探求できたでしょうか?」。下表の「確認事項」1～11 につきそれぞれの到達度を自己評価してみましょう。「ともに学びあい・育みあい・高めあう」教職実践力を確認しよう!

確 認 事 項	確認事項の到達度(該当するところに○印を)		
	よくできた	ある程度できた	できなかった
1. クラス&グループのメンバーに、安心し・信頼しつつ、自らの意見を自由に伝えることができましたか?			
2. クラス&グループのメンバーの意見に耳を傾け、しっかり聞き取り、メモをとることができましたか?			
3. クラス&グループのメンバーと、心おきなく、相互の意見交換などできましたか?			
4. クラス&グループのメンバーが困ったり、内容を理解できないでいたりするとき、相談に乗ったり、理解を助ける助言を行ったりすることができましたか?			
5. クラス&グループのメンバーが何らかの理由で欠席した場合、授業の様子やグループ・ディスカッションの内容などをについて、助けを求めることができましたか?			
6. クラス&グループのメンバーが何らかの理由で欠席した場合、授業の様子やグループ・ディスカッションの内容などをについて情報を提供したり、配布資料をとっておいたりできましたか?			
7. クラス&グループのメンバーの意見交換・ディスカッションなどを通して、他者の意見を参照しつつ、自らの意見をより明確にしたり、そのイメージを自分なりに工夫して膨らませたりしながら、創造することができましたか?			
8. 上記 1～7 の学びを活かしながら、自らの意見をより明確に・論理的に、論述することができましたか?			
9. 上記 1～8 の学びを活かしながら、自らの意見をより豊かにスピーチや手紙により表現することができましたか?			

10. 上記1～9の学びを活かしながら、教職に就くことに自信と目的意識を持つことができましたか？			
11. 上記の学びあいを通して、お互いを育み・励ましあいながら、あなた自身が自らの教職実践力を創造的に探求できたでしょうか？			

※ 後期の「教職実践演習(小)B」においても、「ともに学びあい、ともに育みあい、ともに高めあう教職実践力の創造的探求」を副題として掲げ、本演習推進の原動力にしたいと願っています。その理由は、下記の通りです。

1. 本学教育学科のみなさんが語らいながら学びあう日常的な光景の中に、みなさんが親しい友人とともに学びあい、ともに育みあう心が生きていて、とても輝いて見えます。武庫女生の善いところのひとつです。
2. この心と輝きは、みなさんの人生の貴重な財産からものです。将来、どのような社会で生きていく上でも、とても大切な力となることでしょう。この貴重な学びあう姿を、了承の上 Classroom に写真で投稿します。
3. みなさんの学びあう力は将来、教職に就く場合も、職場の同僚性・社会性につながる力であり、同時に子どもたちにもぜひ育んで欲しい＜生きる力＞であり、同時に人を(に)＜生かす力＞＜生かされる＞でもあります。
4. 本演習においても、みなさんの真剣な笑顔に満ちて語りあう善さを生かしながら、メンバーとともに支えあって、教職実践力についてさらなる探求を続けましょう。
5. メンバーが欠席した場合には、当日配布資料をとっておいたり、授業の様子を伝えてあげたり自然にできるようになりましょう。情報提供の際には、クラスごとに設定されている Classroom を積極的にご利用ください。
6. 最後に、この「ともに学びあい、ともに育みあい、ともに高めあう教職実践力の創造的探求」は、本学立学の精神が掲げる「高い知性と善美な情操と高雅な徳性とを兼ね備えた有為な女性」像とかかわって、特に「高雅な徳性」＝「人を思いやり、人のために尽くす精神」の探求につながります。大切にしたい私たちの願いです(資料Ⅲ：立学の精神に立脚した全人的教職実践力の体系化とその質保証システムの構築〔構造図〕参照)。

### ③ 探求ノートPART 5:『小学校教師として必要な資質・能力の修得状況に係る＜自己評価＞及び＜今の探求課題とその方法＞』等についての自己確認シートの作成・提出(20点)

1. 資料Ⅰは、小学校教師として必要と考えられる「資質・能力」について体系的に指標化したものです。
2. この体系的に表示された個別の指標に即して、4 年次後期開始時点で、自己評価を行い、それらの修得状況を確認するための振り返りシートです。作業方法を確認の上、自己評価を行いましょう。
3. この作業を踏まえて、みなさんが現状での＜教職実践力の修得状況＞を把握することで、「もっと伸ばしたい力」や「もっと補っておきたい力」、つまり＜今後の探求課題＞を確認することができます。併せて、その課題を探求するための＜手だて・方法＞についても、考えてみましょう。
4. もちろん、みなさんから提示された＜今後の探求課題＞のすべてについて、この授業で対応できるとは考えられません。みなさんが来春から教壇に立ち、子どもたちに教師としてかかわる際に求められる、最小限の教職実践力と自信をもって本学を卒業できるよう、願っています。
5. さらに、私たち担当教員から見れば、この4年間にわたる本学での教員養成教育全体を通して、小学校教師として必要と考えられる「資質・能力」の修得状況について＜みなさん自身はどのように自己評価しているか＞を把握することができます。しかし、この「資質・能力」は、固定的で絶対的ではないことに留意しましょう。
6. みなさんの自己評価内容を、今後の「教職実践演習(小)A・B」のみならず、＜小学校教職課程全体の改善＞に少しでも活かすことにつなげて行けたらと願っています。
7. 探求ノートPART 5については、10月13日(土)までに完成させて、クラス幹事さんが取りまとめて、前原までお届けください。全員分の分析を行う予定ですが、各クラスでまとめる時間をとりたいと考えています。

【Ⅲ】第2回目～第13回目の授業における「履修学生の行動」及び「担当者の対応」等について

区 分		履 修 学 生 の 行 動	担当者の対応例		配点
主 課 題	A	1. 学生はゲスト・ティーチャーによる「講義」と「その事前学習」を踏まえ(主)課題：「探求ノートPART1・2・3・4の★マーク課題」を完成させ、次回の授業に持参し担当教員の指導を受ける。 2. 学生は、(主)課題：「探求ノートPART1・2・3・4の★マーク課題」を「所定の期限までに」担当教員に提出する。 3. 探求ノートPART5＝自己評価シート：20点	期限内に提出された「探求ノートPART1・2・3・4★」を担当教員が評価する。	※ 必 修	各 探 求 ノ ー ト 5 冊 に き 20 点 満 点 で 評 価 す る 合 計 100 点
	B	1. 学生が作成した(主)課題：「探求ノートPART1・2・3・4の★マーク課題」を活用して、各グループでディスカッションを行ったり、担当教員による「独自の」補完的指導を受けたりする。 2. 学生は学んだことを(副)課題「探求ノートPART1・2・3・4の☆マーク課題」にまとめ「所定の期限までに」担当教員に提出。	期限内に提出された「探求ノートPART1・2・3・4☆」を担当教員が評価する。	※ 左 記 の B ・ C ・ D よ り 選 択 す る	
	C	1. 学生が作成した(主)課題：「探求ノートPART1・2・3・4の★マーク課題」を活用して、(副)課題：ワークシート『まとめ：(〇〇)府・県・市のゲスト・ティーチャーから私たちが学んだことと今後の探求課題～教職実践力の向上をめざして～☆』をグループで作成・発表を行う。 2. この(副)課題：「ワークシート」については完成の上、「所定の期限までに」担当教員に提出する。	期限内に提出された「ワークシート☆」をグループごとに評価し、これを個人評価点に算入する。		
副 課 題	D	1. 担当教員が独自の判断で、(副)課題：「前期に十分扱えなかった担当分野の特定テーマ」や「履修者の声や修得状況から補強を要する(と判断される)テーマ」等について「補完的指導」を実施し、指示された「レポート・作品・提出物等☆」により評価する。 2. 「提出期限」と「提出物」に注意すること！	担当教員の指示による。		

【備考1】『教職実践演習探求ノート』を作成する意図と活用方法・提出方法・評価方法等について

1. 作成の意図：ゲスト・ティーチャーとの学びを、形式的・一方的・表面的な「受動的学び」＝「聞き流し」に終わらせないため、その事前・事後の学びと連動させるとともに、受講者相互の学びあいを通して、教職実践について「主体的・能動的・協働的な学びあう力」を修得することです。
2. そのためのツールとして、『教職実践演習探求(小)B ノート』を活用することで、結果的にゲスト・ティーチャーとの「学びの内容」を深め、同時に「学びの質」を高めることにつながることを、期待します。
3. 『教職実践演習(小)B 探求ノートPART1・2・3・4』及び「ワークシート」の趣旨と構成をよく理解した上で、説明文を熟読し、積極的に活用しよう。
4. ★印が付されている課題は『必修』課題、☆印が付されている課題は『選択必修』課題です。
5. 期限内に提出された「探求ノート」PART1・2・3・4・5について、各20点満点で採点します。「探求ノート」提出期限は、各PART1・2・3・4の各演習が終了した1週間後を、「原則」とします。遅滞者は、各自で先生方にご相談ください。未提出の場合、0点ですので、ご注意ください。
6. 『小学校教師として必要な資質・能力の修得状況に係る＜自己評価＞及び＜今後の探求課題とその方法＞』等についての自己確認シート(探求ノート：PART5)の作成・提出(20点) 合計100点満点です。



## 【備考2】『教職実践演習(小)B探求ノート』記述作業を行う際の留意事項＜論作文対策＞

下記の事項は、前期教職実践演習(小)Aの探求ノートを読み、採点する際に気付いたことです。

○正しく・分かり易く文字を表記することは、小学校教師としては大変重要な表現力です。

○聞く力・話す力・読む力と併せて、この機会に＜書く力＝文章表現力＞を更に高めましょう。

1. 使用する鉛筆等の濃さに注意しよう。とても優れた内容を書いている、薄くて読めなければ、その善さが伝わらないことがとても残念です。
2. 段落をつけたり、小見出しをつけたり、項目ごとに番号をふったりして、読み易さについて工夫しよう。句読点に注意しよう。
3. 「私は・・・」「・・・と思います」「・・・と感じます」などの多用に注意しよう。確実な事実を述べる場合は断定形、やや不確実な事柄の場合は推量形の表現を用いよう。
4. 正規のレポート等においては、略字の使用を控えよう。
5. 誤字に注意しよう。癖字になっている場合も、多々見受けられたので、習慣を自覚して修正しよう。
6. 文字を丁寧に書くよう、心がけよう。
7. 「・・・が、・・・が、」の多用を控えよう。また、重文や複文の連続は、意味が伝わりにくい。

## 【IV】第14・第15回目の「授業運営」及び「授業アンケート結果回答」等について

※ 授業の進捗状況や学修実態を踏まえて、軌道修正する場合があります。

- ①14回目：主課題として、4自治体教育委員会又は学校現場からのお話を踏まえ、一自治体に特化した形で、当該自治体又は学校現場から学んだ内容と課題の内容について、事前に指定された4グループが10分以内で発表し、10分で質疑応答を行う。神戸市・西宮市・大阪府・大阪市につき、一グループ発表を想定(20分×4=80分)。

主課題：「4自治体教育委員会からのゲスト・ティーチャーに学んだこと」発表要領(例)＜プレゼンテーション＞

ゲスト・ティーチャー	発表予定クラス	発表予定グループ・メンバー及びリーダー(*)					
大阪府(10分+10分)	A B C						
大阪市(10分+10分)	A B C						
西宮市(10分+10分)	A B C						
神戸市(10分+10分)	A B C						

- ②15回目前半：副課題として、担当者裁量の特定テーマにつき、3グループが10分以内で発表し、10分で質疑応答を行うことを想定(20分×3=60分)。

副課題：「担当者裁量の特定テーマ」についてのグループによる発表要領(例)＜プレゼンテーション＞

発表予定クラス	主な授業担当者	発表予定グループ・メンバー及びリーダー(*)					
Aクラス(10分+10分)	磯部 美良						
Bクラス(10分+10分)	遠藤 純						
Cクラス(10分+10分)	前原 健三						

15回目後半：上記発表+質疑応答への総評コメント・本授業への事前アンケートへの回答を行う(約30分)。

- ③なお、上記①②にて指定発表を行うグループは、「教職実践演習(小)B」履修者を代表して、教育学科「教育研究会」において口頭発表を行う。発表件数については、計1～3件を想定し、発表実施の可否も含めて担当者間での意見調整を行う。
- ④実施の可否・発表件数・指導担当者の決定については、早め(10月中には)に行う。

【V】大阪府・大阪市・西宮市・神戸市教育委員会からゲスト・ティーチャーをお迎えするに際して  
～＜全人的教職実践力＞形成の土台としての礼儀・作法とその実践～

後期の『教職実践演習(小)B』では、標記の自治体教育委員会からゲスト・ティーチャーをお招きして、お話を伺う企画を用意しています。特に、大阪府・大阪市・西宮市・神戸市の教育委員会につきましては、みなさんの多くは、その自治体住民・市民・府民であったり、当該自治体の幼稚園・小学校・中学校・高等学校に通った経験もあつたりするかもしれません。あるいは、本学入学後に参加した、学校ボランティア活動や教育実習等でも、大変世話になったりしているかもしれません。

このような意味で、標記の自治体教育委員会とその所管下にある公立学校園と私たちは、大変近い関係にあります。さらには、教職を志すみなさんにとっては、この夏の公立学校園教員採用選考試験において、その実施者であり、採用権者でもあります。みなさんが、幼いころから追求めてきた「教職への夢」の実現を託そうとしている、まさしくその当事者でもあります。

卒業を目前に控えた、この後期の『教職実践演習(小)B』において、みなさんの教職実践力を最終検証するにあたり、上記4自治体教育委員会よりゲスト・ティーチャーをお招きし、それぞれの自治体における教職実践に係る講義(話題の提供)をしていただくよう、お願いしました。

そこで、“*Student Guide 2018 —for Academic Life*” (p.50)に記載されている「1. 受講マナー・2. 教室内のマナー」に加えて、以下のような授業中に守るべき学びのマナー＝礼儀・作法を、「受講心得」として定めます。このような学びの作法もまた、武庫川学院立学の精神に立脚した全人的教職実践力の重要な一部を構成する基礎的要素と考えます(『学院教育綱領』第二項参照)。

1. 授業開始の10分前、つまり、**午前10時35分には、I-202教室に着席を完了**しましょう。
2. 遅刻者については、入室を認めない場合があるので、注意すること(大勢の遅刻者が、そろそろと授業中に入室する事態は避けたいからです)。入室を許可された場合は、最後列席に静かに着席し、授業の用意を下記3の要領に準じて行いましょう。
3. 座席については、前から詰めて、以下の要領で着席しましょう。
  - ① 初回は、正面に向かって、右手前にAクラス、左手前にBクラス、後方にCクラスの順で着席します。ローテーションします。
  - ② 着席したら、筆記用具及びノートを机上に用意しましょう。不要なものは、机上に置かず座席下に置きます。
  - ③ ペットボトルまたは飲料嗜好品等は机上に置かず、バッグや鞆等にしまいます。
  - ④ 携帯電話・スマートフォン等は電源を必ず切って、机上に置かずバッグや鞆等にしまいましょう。
4. 授業開始時刻である午前10時45分に、全員起立して挨拶しましょう。「起立」「礼」「着席」の号令は、クラス幹事または前列の指名された方がかけましょう。
5. 講義中は、以下の事項に注意しましょう。
  - ① 姿勢を正して、前を向いて、講義を拝聴します。
  - ② 講義中は、あくびをしないよう注意する。あくびしたい時は、下を向いて手を口に添えます。
  - ③ 講義中は、居眠りをしたり、私語をしたり、よそ見をしたり決してしないよう、自ら講義に集中します。
  - ④ 講義中に居眠りをしたり私語をしたりするひとが傍にいたら、勇気を出して注意しあいます。
  - ⑤ 講義中のトイレは、極力差し控えるよう、事前に用を済ませて入室します。
  - ⑥ 講義中にトイレに行きたくなった場合は、状況を見計らって姿勢を低くして静かに動きます。同様に、入室します。ドアを開閉する際に、大きな音を出さないよう注意します。
  - ⑦ 講義中に、気分が悪くなった場合は、がまんをせず、近くにいる担当教員に相談します。近くに教員が見当たらない場合は、傍にいる人に相談します。相談された人は、近くにいる担当教員の傍へ行って相談します。

- ⑧ 相談された教員は、状況を他の教員に報告し、場合によっては保健センター(0798 - 45-3545)へ電話し、支援を依頼します。
- ⑨ 講義中は、基本として、ゲスト・ティーチャーの方を向いて、講義を拝聴しよう。
- 必要な場合は、探求ノートで記録メモをとり、レポート作成時に、活用できるよう心がけます。
- お尋ねしたいことなどがあれば、探求ノート「私の質問コーナー」にその内容を記しておき、適切な時間に質問します。授業の後半に、質問時間をいただく予定です。
- 積極的で活発な質疑応答の時間となることを、期待します。
- 当該自治体の教員採用試験を受験した受講生にとっては、採用試験のことや採用後のこと等について、気になっていることも多々あるでしょう。この機会に、お尋ねしてください。

## 6. 授業終了に際しては、全員起立のうえ、挨拶をしましょう。

「起立」「礼」「着席」の号令は、クラス幹事がかけましょう。感謝の気持ちを込めて、笑顔と大きい声で挨拶しましょう。＜「礼」に始まり、「礼」に終わる教職実践＞

## 【VI】各担当者からのメッセージ・・・(記載欄については、紙幅の都合上割愛する)

## 【VII】『教職実践演習(小)A・B』関連の参考文献・資料等の紹介と鳴松会・鳴教会へのご案内

～武庫川学院立学の精神に立脚した全人的教職実践力を創造的に探求し続けるひとのために～

「教職実践演習(小)A・B」での学びを深めるためには、これまで受講してこられた教職関連科目をはじめ、共通教育での学び、教育演習・卒業研究等々での学び、教育実習・学校ボランティア活動での学び等々と、内容的に関わらせながら、＜みなさん自身の中で、全人的教職実践力として統合的かつ相互連関的に再構築しつづけること＞が重要です。武庫川学院立学の精神に立脚した全人的教職実践力の形成は、決して「教職実践演習(小)A・B」という一授業の中で完結するものではありません。

そこで、＜この授業での学びと、他の授業や学外活動等での学びを、相互につなげて行く学びあい(愛)＞に生涯に互って挑戦しましょう。そのため、教職実践や教師教育に関する文献・資料等について、紹介します。ご利用ください。また、ぜひ鳴松会・鳴教会での学びあいにも、ご参加ください。

### A 教職に就くことに迷ったり、悩んだりしている人のために～迷い・悩みの中にヒントが宿る！

1. 木村泰子著 2016「みんなの学校」流自ら学ぶ～子の育て方大人がいつも子どもに寄り添い、子どもに学ぶ！  
～小学館(著者木村泰子先生は本学の卒業生で、長年大阪市の教員として勤務され、大空小学校初代校長です。)
2. 多賀一郎・藤本美知代・宇野弘恵著 2016 女性教師だからこその教育がある！ 学事出版
3. 佐藤博・山崎隆夫編著 2014 みんな悩んで教師になる かもがわ出版
4. 石原加受子 2016 先生に向いていないかもしれないと思った時に読む本 小学館
5. 安次嶺隆幸著 2013 すべては挨拶からはじまる！「礼儀」でまとめる学級づくり東洋館出版社
6. 諸富祥彦著 2012 教師の悩み解決塾 教育開発研究所

### B 最近の教員養成論に関心を持つひとのために～教師教育学へのいざない～

1. 上條晴夫責任編集 2015 教師教育～いま、考えるべき教師の成長とは～さくら社
2. 武田信子・金井香里・横須賀聡子編著 2016 教員のためのリフレクション・ワークブック～往還する理論と実践～学事出版
3. コルトハーヘン著 武田信子監訳 2010 教師教育学～理論と実践をつなぐリアリスチック・アプローチ～学社
4. 山根耕平監訳 2015 教員養成の新視点―カナダからの提言―晃洋書房

### C 「教職実践演習」に関心を持つひとのために～テキスト類を中心に～

1. 中央教育審議会答申(平成 18 年 7 月 11 日)今後の教員養成・免許制度の在り方について(答申)
2. 原田恵理子・森山賢一編著 2014 自己成長を目指す教職実践演習テキスト 北樹出版
3. 西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也著 2013 教職実践演習ワークブック～ポートフォリオで教師力アップ～ミネルヴァ書房
4. 青木秀雄編 2013 教職実践演習 ～磨きあい高めあう熱意ある教師に～ 明星大学出版社
5. 梨木昭平著 2012 教職実践演習 ～ロールプレイ・ロールレタリング対応～ 大学教育出版
6. 小田豊・神長美津子編著 2013 保育・教職実践演習 光生社
7. 小原敏郎・神蔵幸子・義永睦子編著 2013 保育・教職実践演習 ～保育者に求められる保育実践力～建帛社

### D これからの我が国の学校教育改革及び教員養成改の方向性に関心を持つひとのために

～答申を中心に～ 初等中等教育局教育課程課教育課程企画室……………(省略)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/attach/1393866.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/attach/1393866.htm)

終わりに このような動きをも見通しながら、「教職実践演習(小)B」を受講して下さることで、本学での学びが、いま改革進行中の学校現場での実践的＝理論的学び並びに教員等の資質能力向上指標に基づく体系的研修による生涯に亙る学びへと、発展的に繋がって行くことを期待しています！

【資料Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】…これらの資料の使用法・活用法・目的等について下記のように説明している(縮小版)。

<p><b>資料Ⅰ：『小学校教師として必要な資質・能力の修得状況に係る＜自己評価＞及び＜今後の探求課題とその方法＞』についての自己確認シート</b></p> <p>小学校教師として必要な資質・能力の修得状況に係る ＜自己評価＞及び＜今後の探求課題と方法＞を確認しよう！</p> <p>大教 4 年 ( ) 組 ( ) 番 名前 ( ) 提出日：10 月 13 日(土)</p> <p>★ &lt;本学における学びの総体&gt;を踏まえて、現時点での修得状況を自己評価し、今後対応する＜自己の実践的課題とその探求方法＞を把握しよう。</p> <p>★ 卒業後の教職研修のための、または教員採用試験受験準備のための、基礎資料としてご利用ください。</p> <p>① 「自己評価項目」及び「自己評価指標」に即して、自己評価を 5 段階で行う。該当レベルに☑を記入する。</p> <p><b>5＝かなり十分である 4＝十分である 3＝普通である 2＝あまり十分ではない 1＝かなり不十分である</b></p> <p>② 「項目ごとの自己評価点」欄にレベルごとの評価点を記入し、更にその合計点を「評価指標の数」で除する。</p> <p>③ これから更に「高めたい」または「補いたい」資質・能力及び今後の探求課題の欄に、自らの課題内容と探求方法等を記入する。併せて、4 年間の学びの振り返りを総合的に、クラスやグループで実施し課題を整理する。</p>
<p><b>資料Ⅱ：『総合自己評価 レーダーチャート』を作成し、自己の＜教師としての資質・能力＞の修得状況＝教職実践力について、構造的に把握しよう。</b></p> <p>① 資料Ⅱ右表：「総合自己評価の項目別一覧表」の「項目ごとの合計点」及び「項目ごとの平均値」の欄に、該当する数値を記入する。</p> <p>② 上記の記載内容をふまえて、資料Ⅱ左図：「レーダーチャート」を完成させる。</p> <p>③ 全体の確認作業を踏まえて、卒業後、(a) 取組みたい課題 (b) この授業について改善・工夫してほしいことなどを具体的にお答えください。(回答欄省略)</p>
<p><b>資料Ⅲ：武庫川学院立学の精神に立脚した全人的教職実践力の体系化とその質保証システムの構築〔構造図〕</b></p> <p>① 本学にて開設されている＜全ての教職課程と教職実践演習との関連性＞について、構造的に理解する。</p> <p>② 武庫川学院立学の精神に立脚した＜全人的教職実践力＞について、体系的・構造的に理解する。</p>

資料 I：『小学校教師として必要な資質・能力の修得状況に係る＜自己評価＞及び＜今後の探求課題とその方法＞』

についての自己確認シート(1)：A・B・C・D

項目群	自己評価指標群	自己評価					※これから「さらに高めたい」又は「しっかりと補いたい」資質・能力の具体的な課題とその方法等 今後取り組みたい＜具体的な＞課題(項目群より1項目以上につき回答) 左記課題の探求方法等
		1	2	3	4	5	
A 幅広い教養と豊かな人間性	① 社会人としての常識と幅広い教養を身につけ、人間性を豊かにする努力をしている						
	② 外国語等の一般的・基礎的な教養を養おうとしている						
	③ 情報教育機器の活用を理解し、技術の基礎を身につけようとしている						
	④ 自国や他国の文化・歴史について正しく理解し、文化・歴史の違いを超えて互いを尊重しようとしている						
	⑤ 自然を尊重し、大切にしている						
	⑥ 自分のストレスや健康状態を適切に管理できる						
	◆ 項目①～⑥の自己評価合計点＝( )点						
B 教職に対する情熱・使命感	① 教育に対する情熱・使命感を高めるための努力をしている						
	② 教育の重要性と社会的意義・責任を深く認識している						
	③ 子どもを一人の人間として尊敬し、愛情をもってともに成長する存在となることをめざしている						
	◆ 項目①～③の自己評価合計点＝( )点						
C 学校教育についての理解	① 教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解している						
	② 日本国憲法・教育基本法・子どもの権利条約の人権の尊重などの内容について理解している						
	③ 教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得している						
	④ 学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得している						
	⑤ 子どもの成長や健康に配慮して行う教育活動の基礎を理解している						
	⑥ 子どもの安全を確保する危機管理の基礎を理解している						
	⑦ 学校教育における学校経営・学級経営の重要性や課題について理解している						
	◆ 項目①～⑦の自己評価合計点＝( )点						
D 子どもについての理解	① 子ども理解のために必要な心理と発達についての基礎知識を習得している						
	② 学習集団形成に必要な基礎理論・知識を習得している						
	③ 個々の子どもの特性や社会的・環境的背景を踏まえて適切にかかわる方法を理解している						
	④ 生徒指導の目的や方法を理解し、個々の子どもに応じた対応方法を身につけている						
	◆ 項目①～④の自己評価合計点＝( )点						

資料 I：『小学校教師として必要な資質・能力の修得状況に係る＜自己評価＞及び＜今後の探求課題とその方法＞』

についての自己確認シート(2)：E

E 教育課程・教科等に関する基礎知識と指導力	① 小学校学習指導要領や教科書の内容を理解している							
	② 教育課程編成に関する基礎理論・知識を習得している							
	③ 国語科教育分野の科目の内容や指導法について理解している							
	④ 社会科教育分野の科目の内容や指導法について理解している							
	⑤ 算数科教育分野の科目の内容や指導法について理解している							
	⑥ 理科教育分野の科目の内容や指導法について理解している							
	⑦ 生活科教育分野の科目の内容や指導法について理解している							
	⑧ 音楽科教育分野の科目の内容や指導法について理解している							
	⑨ 図画工作科教育分野の科目の内容や指導法について理解している							
	⑩ 家庭科教育分野の科目の内容や指導法について理解している							
	⑪ 体育科教育分野の科目の内容や指導法について理解している							
	⑫ 道徳教育の内容や指導法に関する基礎理論・知識を習得している							
	⑬ 特別活動の内容や指導法に関する基礎理論・知識を習得している							
	⑭ 「総合的な学習の時間」の内容や指導法に関する基礎理論・知識を習得している							
	⑮ 「外国語活動」の内容や指導法に関する基礎理論・知識を習得している							
	⑯ 情報教育の内容や指導法に関する基礎理論・知識を習得している							
	⑰ 教材を分析することができる							
	⑱ 教材研究を生かした各教科等の授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案としてまとめることができる							
	⑲ 教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成することができる							
	⑳ 子どもの反応を生かし、協同的な学びを重視しながら授業を展開することができる							
	㉑ 板書や発問、的確な話し方など授業を行う上での基本的な表現の技術を身につけている							
	㉒ 授業評価や学習評価を、その目的を理解したうえで客観的に行うことができる							
	◆ 項目①～㉒の自己評価合計点＝( )点							

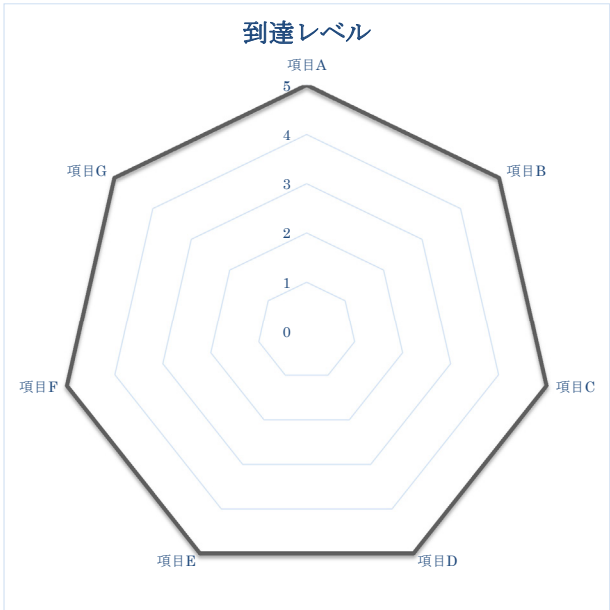


資料Ⅰ：『小学校教師として必要な資質・能力の修得状況に係る＜自己評価＞及び＜今後の探求課題とその方法＞』

についての自己確認シート(3)：F・G

F 他者との 連携・協 働、コミュ ニケーシ ョン	① 他者の意見やアドバイスを耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができる									
	② 保護者や地域の人びととの連携・協力の重要性を理解している									
	③ 他者と協働して授業等を企画・運営・展開することができる									
	④ 集団において、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割を適切にこなしたりすることができる									
	⑤ 子どもや保護者の気持ちを真摯に受け止め、公平・平等に接して、信頼関係を築くことができる									
	◆ 項目①～⑤の自己評価合計点＝( )点									
G 自己洞察力 課題探求力 問題解決力 研究継続力	① 自己の実践的課題を認識し、その解決に向けて学び続ける姿勢をもっている									
	② 自らの学びや実践を継続的に振り返り、その都度、分析・改善していくことができる									
	③ 自らの教育実践のよりよい改善をめざすため、国内外の教育動向について広い関心を持ち、関連の情報等を収集し、積極的に活用することができる									
	④ 我が国や海外の教育に関する様々な課題(いじめ・不登校・特別支援教育・子どもの変化を含む)に関心をもっている									
	⑤ 我が国や海外の学校教育に関する様々な課題について、多様な情報を収集し、それらを理解することができる									
	⑥ 我が国や海外の学校教育に関する様々な課題について、多様な情報や他者の意見を踏まえて論理的に考え、自分の意見を導くことができる									
	⑦ 上記の①～⑥までの自己洞察力・課題探求力・問題解決力を、さらに、継続的な研究課題へとつなげ、実践とかかわらせつつ、研究を続ける意思と行動力をもっている									
	⑧ 上記の①～⑦までの課題探求力・問題解決力・研究力を、さらに、他者と協力しつつ遂行したり、研究会等で積極的にプレゼンテーションしたりすることができる									
	⑨ 上記の学びを踏まえ、報告書や論文にまとめることができる									
	◆ 項目①～⑨の自己評価合計点＝( )点									

資料Ⅱ：『総合自己評価 レーダーチャート』を作成し、自己の＜教師としての資質・能力＞の修得状況＝教職実践力について、構造的に把握しよう。



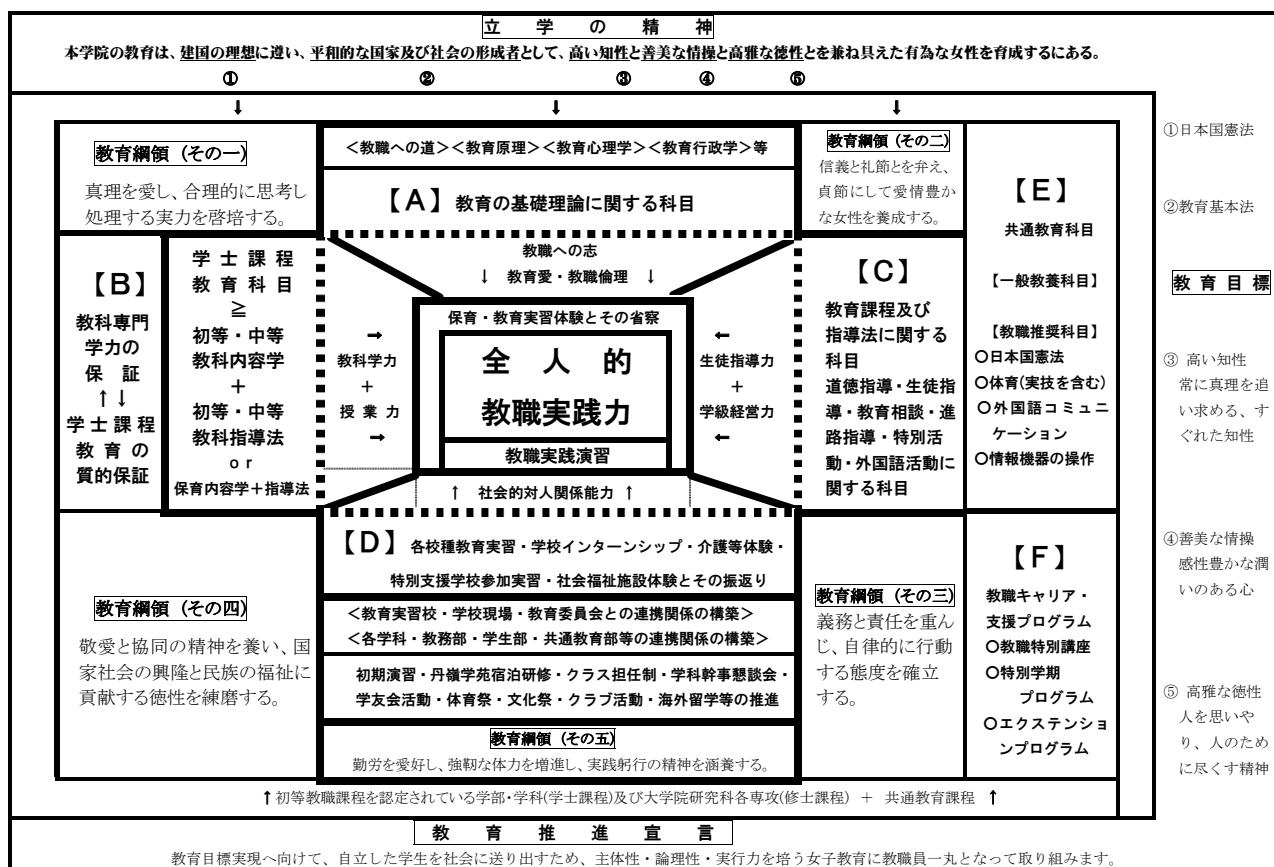
総合自己評価の項目別一覧表

総合点÷項目数＝平均値

	項目内容(項目数)	項目ごとの総合点	項目ごとの平均値
項目 A	幅広い教養と豊かな人間性 (6)		
項目 B	教職に対する情熱・使命感 (3)		
項目 C	学校教育についての理解 (7)		
項目 D	子どもについての理解 (4)		
項目 E	教育課程・教科等に関する 基礎知識と指導力 (22)		
項目 F	他者との連携・協働、コミュ ニケーション (5)		
項目 G	自己洞察力・課題探求・問題 解決力・研究継続力 (9)		

大教4年 ( ) 組 ( ) 番 名前 ( ) 提出：10月13日(土)

資料Ⅲ 立学の精神に立脚した全人的教職実践力の体系化とその質保証システムの構築〔構造図〕



【註】教育学科並びに健康スポーツ科学科に開設されている教職課程科目については、全て学士課程・短期大学士課程に含まれる。

## 【謝辞】

「教職実践演習」自体の授業開設準備・運営・実施に際しましては、(1)中教審答申が提言された平成18年の時点から本学が教職課程実地視察を受けた平成20年12月まで、(2)その直後の平成21年度中の課程認定審査まで、(3)平成22年度からの試行期間及び(4)平成25年度から平成30年度までの必修期間までの約13年間に亘って、大阪府・大阪市・西宮市・神戸市の各教育委員会並びに教育センター等との連携のもと取組んで参りました。ご協力とご支援を賜りました上記教育委員会の教育長・教育センター長・学校教育課課長はじめゲスト・ティーチャーとしてご指導賜りました総計24名以上の先生方に、更には教育実習校の校長並びに諸先生方に、心より御礼申し上げます。

また、この間学内では、大河原量学院長はもとより糸魚川直祐前学長、瀬口和義現学長、今安達也前副学長、山崎彰現副学長、河合優年現副学長、田中毎実学校教育センター長、矢野裕俊教育学科長、公江茂事務局長、山本昌弘監事はじめ、本学教職課程に係わる全ての教職員の皆様、特に歴代の教職支援課課長及び当課の専門員(現特任教授)の先生方並びに事務職員の皆様には、格別のご指導とご支援を賜りました。同時に、「教職実践演習(小)A・B」必修化以来、共担してくださった佐々木春美先生・磯部美良先生・遠藤純先生他、前倒し試行期以来ほぼ10年近くご指導ご協力を賜りました教育学科の多くの先生方、そして小学校教師を志す教育学科の多くの学生のみなさんとともに学びあうことができました。更には、本学附属中高・幼稚園・保育園の校長・園長はじめ教職員の皆様、教職系同窓会組織である西宮・神戸・大阪の各鳴教会会長はじめ会員の皆様にも、大変お世話になりました。本稿を閉じるに際し、心より感謝申し上げる次第です。最後になりましたが、英文タイトルにつきましては、奥村真司講師(教育)、今村一博教授(教育)、佐々木顕彦准教授(英文)に指導・校閲を賜りました。厚く御礼申し上げます。

前原健三(担当者を代表して)